

平成30年10月4日

6年生の保護者各位

あま市立伊福小学校長
田 邊 孝 博

平成30年度全国学力・学習状況調査の結果及び取り組みについて

保護者の皆様には、日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。さて、今年4月17日に行いました「全国学力・学習状況調査」の結果につきましては、去る9月3日に個人票を配付させていただきました。本校では、その結果を受け、校内検討委員会を設置し、本校児童の学力や学習状況について分析してまいりました。その概要を下記のように報告させていただきます。この結果を、学習活動並びに学校生活全般を見直す参考とし、これからの教育活動に役立てていきたいと考えています。

記

1 分析の方針

文部科学省及び愛知県教育委員会は、結果の公表については、『序列化や過度な競争にならないようにするため提供された平均値等の数値そのものは公表しない』という方針をとっています。

本校もその方針の下、学校全体の傾向を国・県の状況をふまえて分析しました。

2 全体の概況

- 全体の傾向
 - ・ 正答率については、国語A・算数A・理科は全国・県平均とほぼ同じ結果となりましたが、国語B・算数Bは全国・県平均を下回る結果となりました。
- 調査ごとの正答数の分布の傾向（全国・県と比較して）
 - ・ 国語A・・・中位者が多く、やや上位者が少なくなっています。
 - ・ 国語B・・・やや下位と中位者が多く、きわめて上位者が少なくなっています。
 - ・ 算数A・・・中位の者が多く、きわめて上位者が少なくなっています。
 - ・ 算数B・・・やや上位・きわめて上位者が少なく、下位・やや下位の者が多くなっています。
 - ・ 理科・・・中位の者が多く、きわめて上位が少なくなっています。

3 「国語に関する調査」の結果から

国語Aでは、話すこと・聞くことはよくできていましたが、書くことは苦手な児童が多いことがわかりました。言語についての知識・理解・技能については、能力が高く、読む能力については、目的に応じた情報や、登場人物の心情を捉えることが苦手な児童が多かったようです。

国語Bでは、自分の意見と比べて考えをまとめたり、目的や意図に応じて、内容の中心を明確にして書いたりすることについての課題が見られました。

4 「算数に関する調査」の結果から

算数Aでは、図形についての技能や、知識・理解に関する問題はよく解けている児童が多くいました。特に、空間認識や折れ線グラフ、角についての理解ができていました。反対に数量についての技能や、知識・理解に関する問題があまり解けていなかったようです。特に、小数の除法や1にあたる

大きさを求める問題について、苦手な児童が多かったようです。

算数Bでは、すべての領域で、全国平均を下回りました。考え方を説明する記述問題が苦手な児童が多かったです。

5 「理科に関する調査」の結果から

理科では、知識に関する問題が非常によく理解できており、県平均を上回りました。特に、エネルギーや生命に関する問題がよくできていました。また、自然事象についての知識・理解もよくできており、定着しているため、解答方法が記述式でも抵抗はなく、解ける児童が多くいました。

6 「質問紙に関する調査（生活実態調査）」の結果から

全体的には概ねとてもよい結果でした。

よかった点

- 朝起きる時刻や食べる時刻などがきまっていて規則正しい生活を送ることができる。
- 地域社会などで、ボランティア活動に参加したことがある。
- 友達と話し合うとき、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる。
- 将来の夢や目標をもっている。
- 学校で好きな授業があり、授業がおもしろいと思う。
- ニュースを見たり、新聞を読んだりする。
- 授業では、問題の解き方や考え方を分かりやすくノートに書いている。

改善すべき点

- 自分にはよいところがあると思う。
- 先生は、自分のよいところを認めてくれる。
- 家で、自分で計画をたてて勉強をしている。
- 問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考える。

7 改善に向けての取組

基本的な生活習慣は身に付いている児童が多く、健全な学校生活を送ることができています。しかしながら、自分のよさに気付いておらず、自己肯定感があまり高くはない児童が多いことが分かりました。そのため、学校生活において、しゅびータイムでの話し合い活動や道徳教育のさらなる充実、ハッピータイムをはじめとする異学年交流の機会の設定などにより、人との関わりの中で、自分のよさに気付いていけるようにしたいと思います。また、様々な活動の中で、一人一人が活躍できる場所や機会をもてるようにし、自分の居場所を感じられるようにしていきます。

授業については、好きな授業があり、おもしろいと思う児童が多いように、日々の授業に前向きに取り組み、内容を理解しようと努力しています。ノートの取り方については工夫し、後から見て分かりやすいノート作りを心がけている児童が多くいます。しかしながら、難しい問題に遭遇すると、途中で諦めてしまう児童が多いため、今後は、チャレンジ問題にも取り組み、それぞれの力に合わせてヒントを出したり解き方のこつを教えたりしながら、あきらめずじっくり考えた時の解けた嬉しさや喜びを感じられるようにしていきます。家庭学習については、中学校進学に向けて、計画を立てて取り組むことの大切さを話し、計画の立て方や取り組み方を理解して、進んで家庭学習に取り組めるようにしていきます。